第2学年1組 学級活動（2）指導案

第2学年1組（児童数27名）
指導者　宇野 真梨絵

1 題材　「ことば」でなかよく（ふわふわ言葉とちくちく言葉）
【学級活動（2）イ　よりよい人間関係の形成】

2 児童の実態

本学級の児童は、進級してからこれまで2年生として学校での学習や生活がよりよくなるようにと考え、行動する力が徐々についてきている。しかし、普段の生活において、意地悪な言動や行動をしてしまうことが時折あるため、日常的に上手に友達とかかわるための具体的な言葉や行動を指導している。例えば「ありがとう」や「ごめんね」などの具体的な言葉を練習するようにしたり、実践した様子を認めたりすることを通して、友達と仲よくすることは心地よいことであるということを実感する児童が増えてきた。

本題材では、自分たちで言われてうれしい言葉、悲しい言葉を考え、言われてうれしい言葉を実践することにより、友達との関わりが豊かになり、学校生活をよりよくしようという意欲をさらに高め、3年生へと安心して進級できるようにしていきたい。

3 本時のねらい

言われてうれしい言葉に気付き、いろいろな友達と仲よくするために、自らすすんで友達がうれしくなる言葉を使うことができるようにする。

4 本時の展開

	学習活動　〇主な発問　・予想される児童の反応	□指導上の留意点 ☆目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ	1　今日のねらいについて知る。アンケートの結果を掲示し、友達からの言葉で悲しくなることがあることがわかるようにする。 友達となかよくするために、どんな「ことば」をつかうとよいだろう	□結果を提示し、言葉で傷付いている友達がいることを意識できるようにする。
展開 さぐる みつける	2　友達が嬉しい言葉（ふわふわ言葉）と友達が悲しむ言葉（ちくちく言葉）とがあることついて考え、話し合う。 〇ちくちく言葉にはどのようなものがあるか。 ・あっちいって　・きらい　・ばか ・じゃま　・ムリ　・へた ・うざい　・ないしょ　・むかつく 〇ふわふわ言葉にはどのようなものがあるか。 ・ありがとう　・がんばって　・よかったね ・すごい　・上手　・手伝おうか　・ごめんね ・いいよ　・一緒に遊ぼう。 3　ちくちく言葉を使う原因を考える。 〇どうしてちくちく言葉を使ってしまうのだろうか。 ・腹が立つから　・イライラするから ・負けて頭に来たから。 4　ふわふわ言葉を増やすためにどうするか考える。 〇ふわふわ言葉を増やすにはどうすればよいか。 ・相手の気持ちを考える。 ・友達のよいところを見つける。 5　ほめほめじゃんけんをする。 ペアでじゃんけんを行い、じゃんけんに負けた人が勝った人のよいところを見つけてほめる。ほめられたらお互いに「ありがとう。」を言い合う。	□児童から出た「嬉しい言葉」と「悲しむ言葉」を短冊に書き、児童に分類させる。 □あいさつの言葉、お礼の言葉も例を挙げて助言する。また、それらの言葉は「嬉しい言葉」に分類する。 ☆クラスの友達が、言葉によって傷付いている子の気持ちを考えている。 【思考・判断・表現】〈発言〉 □悲しませることを意図していなくても、説明が足りなくて相手が悲しむことがあることを助言する。 □腹が立ったり、イライラしたりしているとそのイライラを相手にぶつけてしまっていることに気付くように助言する。 □ふわふわ言葉に注目させて、友達が嫌な気持ちになるよりもうれしい気持ちになる方がよいクラスになるのではないかと投げかける。 □様々な解決方法が出すことができるように、うれしかった時の場面を思い出させる。 □いろいろな人とほめ合う体験を通して、ふわふわ言葉を使った時の温かい気持ちを体験できるようにする。
終末 きめる	6．今日の話合いを振り返り、「これからのめあて」を考える。	□意思決定が難しい児童には、板書を参考にして考えるよう助言する。 ☆いろいろな友達と仲よくするために、どんな言葉をどんな時に使うとよいかを具体的に考え、めあてを決めている。 【思考・判断・表現】〈観察・学習カード〉